

2026年9月10日

ファーストアカウンティング株式会社

(証券コード：5588)

ファーストアカウンティング、AIで会計伝票の会計・税務論点をチェックする「Steward・税務確認」を開発、サントリービジネスシステムに提供開始

人力からAIを活用した確認への移行により、品質・統制向上と持続可能な経理業務体制の構築を支援

経理シミュラリティを実現するファーストアカウンティング株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：森 啓太郎、以下「ファーストアカウンティング」）は、会計伝票等を対象に消費税、接待交際費、寄付金、固定資産・期間損益などの会計・税務論点をAI技術の活用で確認する経理業務基盤「Steward（スチュワード）・税務確認」の提供を開始しました。

本機能は、会計や税務に関する専門知識や各社の社内規程・業務ルールなどを踏まえて会計伝票等をAIが確認し、確認結果の整理や、必要に応じた問い合わせ対応までを支援するものです。

その第一弾の活用事例として、サントリーグループの経理や総務、人事領域などの業務を担うサントリービジネスシステム株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：笹原 朋子、以下「サントリービジネスシステム」）において、国内9社の月間約1万5千件の会計伝票を対象とした運用を2026年5月より段階的に開始しています。

■開発の背景

近年、企業の経理部門では、人材不足や人件費・外部委託コストの上昇、制度改正への継続的な対応などを背景にDX化が進んだことにより、証憑からの情報抽出や入力、金額・口座情報等の照合といった業務のデジタル化・自動化が進展してきました。

一方、「会計・税務の専門知識」や「各社固有のルール」を踏まえた判断を伴う確認業務においては、単純な文字認識やキーワード検知だけでは対応が難しく、また制度改正等への対応によって確認すべき論点が変化・増加することもあり、人の手に委ねられることが多いのが現状です。

ファーストアカウンティングは、こうした経理課題に対応すべく、専門性を要する確認や判断の業務をAIで支援する「Steward・税務確認」を開発しました。

AIに定型的な確認や一次チェックを担わせることで、人がより重要な判断、承認、例外対応、業務改善に注力できる環境をつくり、経理業務の品質・統制・持続可能性を支えることを目指します。

■「Steward・税務確認」について

「Steward・税務確認」は、会計・税務の専門知識に加え、企業ごとの社内規程や業務ルール等を踏まえて、会計伝票等をAIが確認する仕組みです。

消費税、接待交際費、寄付金、固定資産・期間損益などの論点について全件を対象に一次チェックを行い、確認結果を整理します。また、追加確認が必要と判断された案件については、関係部署等への問い合わせメールの作成など、その後の確認プロセスも支援します。

Stewardが支援する主な業務は以下の通りです。

- 会計伝票等の全件一次チェック
- 会計・税務論点に基づく確認
- 確認結果のステータス分類・整理
- 確認が必要な案件の抽出
- 問い合わせメール等の作成支援

これにより、AIによる確認と人による判断を組み合わせ、一次段階として全件を一定の基準で確認できる業務体制の構築を支援します。

■サントリービジネスシステムにおける活用事例

サントリービジネスシステムでは、サントリーグループ国内9社の月間約1万5千件の会計伝票を対象に、2026年5月から本機能の段階的な運用を開始しました。

サントリービジネスシステムでは、これまでもファーストアカウンティングのAI-OCRを活用し、請求書等の証憑に記載された金額や支払先口座情報などの確認業務の効率化を進めてきましたが、今回の取り組みでは、その活用領域をさらに広げ、月次決算後の会計伝票について、消費税、接待交際費、寄付金、固定資産・期間損益などの会計・税務論点を、人の手で処理する前の段階でStewardが全件チェックします。

Stewardが一次確認、確認結果の整理、必要に応じた問い合わせメールの作成等を支援し、その結果をもとに担当者が必要な確認・判断を行うことで、AIと人がそれぞれの強みを生かせる体制の構築を進めています。



■今後の展望

ファーストアカウンティングはこれまで、AI-OCRをはじめとするソリューションを通じ、経理業務における入力や照合などの効率化・自動化を支援してきました。今後はその領域を、会計・税務の専門性を必要とする確認や判断、問い合わせ対応などへと広げ、経理業務にAIエージェントを組み込むことで、業務プロセス全体の高度化を目指します。

Stewardは、単に個々の作業を自動化するツールではなく、企業固有の規程や業務ルール、蓄積された業務知見を活用しながら、人の判断・統制を支援する経理オペレーション基盤です。

特に、これまでAI-OCR等によって経理業務のデジタル化を進めてきた企業においても、専門知識を必要とする確認・判断業務にはさらなる高度化の余地があります。

今後は会計・税務論点確認で得られる知見を生かしながら、リアルタイムでの確認支援や、問い合わせ対応、残高管理など、Stewardが支援する経理業務のさらなる拡張を進めてまいります。

■サントリービジネスシステム

グループ経理部 プロセス革新グループ部長 伊藤正人氏 コメント

経理特化型AIエージェントの導入は当社にとって初めての挑戦でした。「Steward・税務確認」は、会計伝票の確認において品質向上と効率化を両立する有効なソリューションのひとつであると評価しています。

今後は、さらなる業務の高度化や標準化、担当者の判断支援などを通じて、経理業務全体の生産性向上に寄与することを期待しています。

■ファーストアカウンティング 代表取締役社長 森 啓太郎 コメント

当社は2016年の創業以来、多くの企業の経理・財務部門の皆様と対話を重ねてまいりました。その中で感じてきたのは、企業が正確な会計・税務処理を実現するために、非常に多くの人材と時間を費やしているということです。特に専門知識を要する確認業務において人によるミスや見落としの防止のために、二重三重のチェック体制や外部専門家への委託などのさまざまな工夫を重ねられてきているのが多くの企業の実情です。経理人材の不足が進むなか、こうした品質を人の経験と努力だけで支え続けることは、年々難しくなっています。

「Steward・税務確認」は、この課題に対する当社の答えです。消費税、接待交際費、寄付金、固定資産・期間損益といった税務論点について、AIが最初に全件を一定の基準で確認することで、確認品質の安定と、持続可能な業務体制の構築を支援します。サントリービジネスシステム様との今回の取り組みは、その新しい経理業務のあり方を示す第一歩と考えております。

当社は今後も、Remota、Robotaで培ったお客様との関係を礎に、Stewardを通じて経理業務全体の高度化を支援してまいります。

■ファーストアカウンティングについて

【経理シンギュラリティを実現し、経理の力を解き放つ】

ファーストアカウンティングは、経理シンギュラリティの実現を目指し、AI時代における経理業務基盤の構築に取り組む企業です。

企業活動、とりわけ経理業務において重要なのは、単に情報を処理することではなく、会計・税務・社内規程に基づいて業務を適切に確定し、責任を持って遂行することです。当社は長年にわたり蓄積してきた会計知識と業務知見を基に、AIと人が協調する次世代の経理基盤「Steward」を提供しています。

経理業務の効率化にとどまらず、経理パーソンが企業価値の向上に資する戦略経理に注力できる環境を創出し、「経理を利益の源泉へ」というビジョンの実現を目指します。

社名：ファーストアカウンティング株式会社（東証グロース：5588）

所在地：東京都港区芝公園2-4-1 芝パークビルA館 3階

設立：2016年6月

代表：代表取締役社長 森 啓太郎

URL：<https://www.fastaccounting.jp/>

事業内容：経理AI事業（会計分野に特化したAIソリューションの開発・提供）

- 経理オペレーション基盤『Steward』
- 経理業務のAIモジュール『Robotaシリーズ』
- 請求書処理のプラットフォーム『Remota』
- デジタルインボイス送受信サービス『Peppolアクセスポイント』

■本件に関するお問い合わせ

ファーストアカウンティング株式会社

担当：広報担当

E-mail: press@fastaccounting.co.jp

すべての製品名および会社名は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。